# 急げゴルフコースの整林

関東ゴルフ連盟グリーン委員会参与、IPMターフコンサルタント 柳 久

### 主な内容

- 1. 日本のゴルフコースの樹木の現状
- 2. 樹間競合を齎す密植
- 3. 整林とその前提
- 4. 整林とその必要性
- 5. 整林の方法
- 6. ゴルフコースにおける間伐の注意点
- 7. 整林の実際

# ゴルフコースのタイプと樹木

#### 1)スコットランドのコース

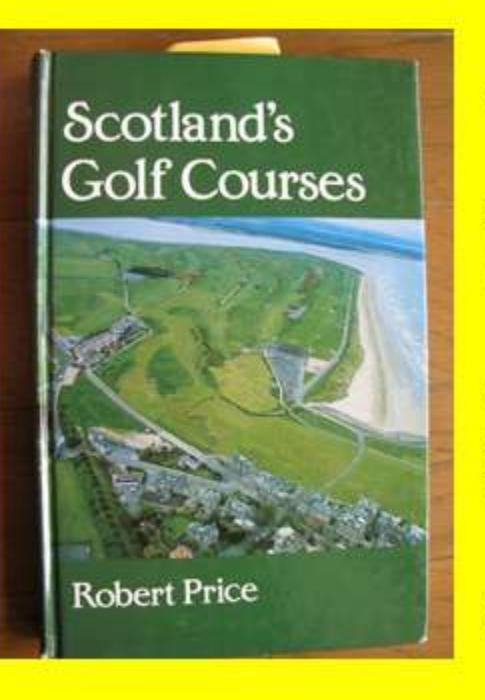
- (1)リンクスランドコース:砂丘地・のコース(大半)
- (2) ウッドランドコース: 林地・・・少ない
- (3)パークランドコース:公園・・・少ない
- (4) ムアーランドコース: 荒れ地・・・少ない

#### 2) イングランド~アメリカ・カナダなど

林地(人工林)のコースが増える

#### 3)日本のコース

林地(人工林)のコースが殆ど



この本は立ち寄ったエジンバラの古城近くの本屋で見つけ購入。

・著者のRobert Priceはウエルズ 生まれの地理学者で、 Kirkintilloch GCのメンバー。全英 400以上のコースを歴訪調査。

・ゴルフがスコットランでどのよう な地理的条件から生まれ、どの ように発展したかについて、地学、 地理学的な立場から科学的に解 説した本。多くの示唆に富む。

このような科学者の現したゴルフ専門書は、アメリカでは発行されていない。貴重な本。

#### スコットランド概観



イギリスを構成する連合王国の一つ。

·面積:7万8133km²

•人口:506万2000人

・地形:スコットランドは高原が多いが、 最高峰でも1400m以下

・気候:西岸海洋性気候。最低気温は 0℃にならず最高気温は17℃程度。

・降水量:西側が多く1000~3000mm/年、 東側は少ない(700mm/年)

・土壌:酸性

・作物:大麦、オート麦、ジャガイモなど

#### スコットランドの植生

- 1)6000年前
  - 殆どが森林地帯(原生林)
  - 南と西:カシノキ、カンバなど、
  - 北と北東:マツ、カンバなど、
  - 最北と西アイルランド:カンバなど
- 2) 現在の植生
  - 数千年に及ぶ人類の利用で大部分は伐採
  - 海岸地域を除き農地と工業用地に転換(第 一次産業革命)
  - -森林面積:国土の10%に激減





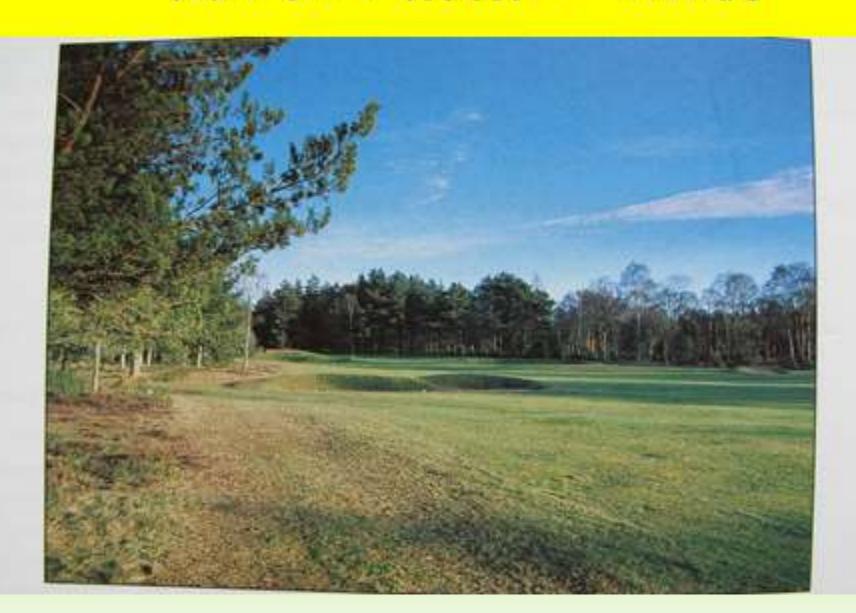
### リンクスランドコースの例-2

Muirfield GL



5 Muirfield from the air at the time of an Open Championship.

# ウッドランド(森林)コースの例



### パークランドコースの例



7 Ratho Park. A parkland course with a fine clubhouse.



The seventeenth hole at Sunningdale

イングランドの内陸のコースの例 and its

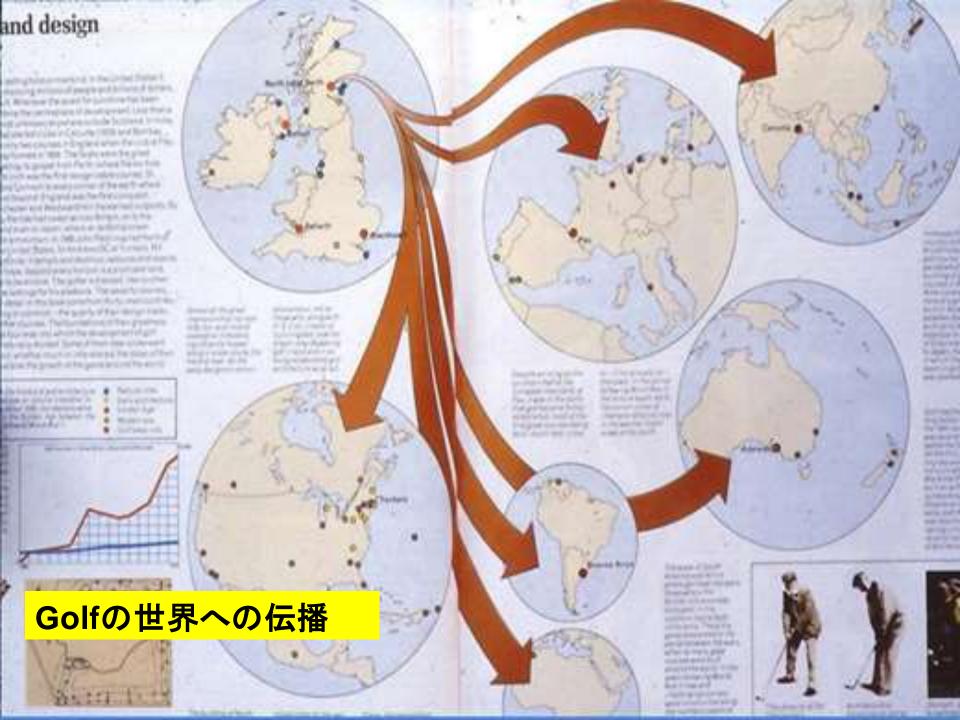
In Sunningdale's case there is no pressing reason to alter the historic Old Course because they have a second course, the New, of equal – if not superior -

### ムーアランドコースの例



4.12 A moorland course, Selkirk.

- to related to









Courteenth Hole at Pine Valley Golf Club, Pine Valley, New Jersey, Par-3, 164 Yards, Circa 1922

### PineValley#14Greenを囲む林帯





a National Golf Club, Augusta, Georgia, Par-5, 445 Yards (Original Yardage) is seen here before the course opened.

#### 近年のAugusta NGC#13のグリーンの後方











### 日本のゴルフコースと樹木の現状

- (1)林地に造成したコース 林木生産用の植栽林を数回の間伐を経て現 在に至る(2)新植面積の多いコース 1960年以降の植栽面積の多いコース 林地育成のための密植が今や競合激化
- (3)木を見て森を見ないコース 特定の権力者の意思による偏った植栽
- (4)経費節減による手入れ不足

# 樹間競合を齎す密植

植栽のベースは林木生産方式

#### 1)スギ林の場合

第2次大戦後の植栽奨励,1ha当たり10,000本(1㎡に1本) 自然落枝の進行~林地の劣化、裸地化、

#### 2)マツ林の場合

平地は薪炭用の植栽林、1ha当たり3,300本(3㎡に1本)マツは極端に日照を好む極陽樹 過密化で細く長い樹冠の貧者な弱い木になる海岸の砂防用には㎡当たり1本とさらに超密植 砂防林に造成したコースは過密により競合が激化 林地の劣化が進行

#### 3) 開発規制強化後のコース

近年は樹間競合が増し間伐の必要性が増している











日陰で<mark>枝の枯死が進んだヒマラヤシーダー(航空公園)</mark>

















地権者が違い海岸の砂防林の自由な管理ができない例



クスの巨木も枝がなければ価値が出ない

# 整林とその前提

#### ゴルフコースにおける樹木の役割とその理解

- (1)優れたコースの条件(Cornish: 1914~2019)
  - ① 高い戦略性(Playability) ②素晴らしい景観(Landscape) ③ 質の高い管理(Maintenance)が正三角形を作ること
- (2)コースにおける樹木の役割
  - ①戦略的な役割 ②樹木の景観的な役割
  - ③樹木の保安上の役割 ④樹木の環境上の役割

# 優れたコースの条件



#### 2. ゴルフコースにおける樹木の役割

- 1) 景観上の役割
  - (1)コースを立体的にしてアクセントをもたらす
  - (2)四季の変化と美観を添える(樹形や色)
- 2) プレー上の役割 立体的なハザードとして戦略性を高める
- 3) 防災上の役割 誤打球防止用に効果
- 4) 環境への役割
  - (1)大気の浄化(**co₂**の吸収とO₂の発生)
  - (2) 気温の調節
  - (3)小動物の棲み処

# 樹間距離と植栽本数

- (1)植栽距離
  - ① 樹木にもよるが7~9m以上(マツは10m)(乗用ラフモアの幅は4.2m)
  - ② 下枝は地上3mまで切除(乗用モアの通 行可能な高さ)
- (2)植栽本数(J.フレンチ&R.P.コールボボ) 立地や予算により異なるが平地の場合

P-3:5~10本 P-4:30本 P-5:40本

①:ティー前の植栽

②:フェアウェイ中間地域の植栽

③:グリーン周囲の植栽

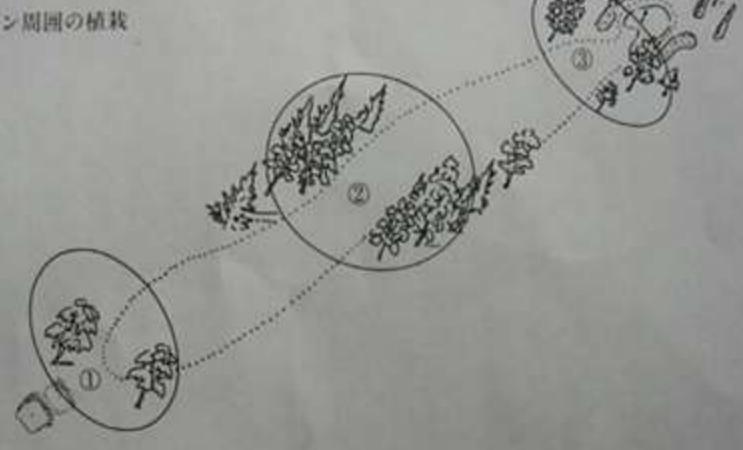


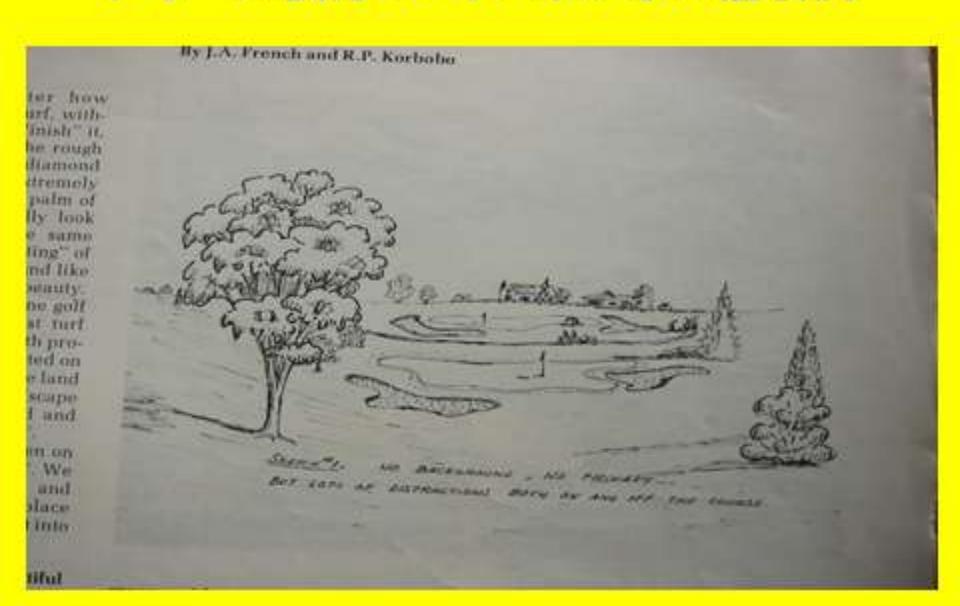
図-1 各ホールの重要植栽地域



# グリーンに輪郭をつける植栽



#### グリーン後方にメリハリがない植栽例



#### グリーンが樹木で囲まれ引き立った例



#### グリーンへの距離を示唆する植栽の例







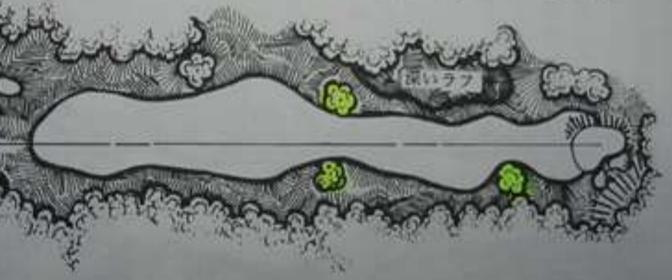




設計に単木を取り入れたホールの略図(トム・ドーク)

本語でも無数のながであるがある。 を表する無数のはがなるのである。 を表する無数の場合を表現がなる。 を表する無数のはいと数目で を表しし聞っているないと数目で を表しし聞っているないと数目で をあっているないと数目で をあっているながに、グ この米を避けるために、グ この米を避けるためには に目を目っているなければ に目を目っているなければ にのなくなる。

マイーショットの掲字勘点 はフェアウェイが少し深入 でいるだめ、シェアウェイ の場からは、小のスケンス では場合なのが懸めため組 での時場なのが懸めたる相 での時場なのが懸めたる相 でなった可なのない。



同上

カーンを100mmである。 一人の10mmである。 一の10mmである。 一の10mmで。



# 整林とその原則

整林:樹間競合を抑え、出来るだけ自然な樹形を安定して維持できる林帯にすること(造語)

- 1) 単木の場合: 戦略性を活かし強剪定せず整枝主体、 ダブルハザードを避ける
- 2) 林地の場合:強剪定せず早目の間伐で適切な樹間距離へ(マツでは7~10m)、列植を避けジグザグに、下枝は3mまで切除(境界植栽は列植)
- 3)四季の演出:モミジなど紅葉する木を混植、コースに四季観とバラエティを出す、(多過ぎないこと)
- 4) 花壇の導入:日本のコースは不足、カラフルに、







































































## 終わりに

- ・ ゴルフコースの樹木は年々成長し樹間 競合はますます進行する
- ・ 樹木の役割を十分理解し整林を急ぐこと
- ・ 手遅れにせぬよう早期に計画実施する
- ・ 間伐材の有効利用を(用材、チップ、堆肥化、マルチィング)
- ・ 花壇の利用